Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

(講演者紹介)「子育て外科医10年の歩み」~『消化器外科職務と家事育児の両立』から『手術デバイス開発』に至るまでの道のり~

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河野, 恵美子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00031859

講演者紹介

「子育て外科医 10 年の歩み」
～『消化器外科職務と家事育児の両立』から『手術デバイス開発』に至るまでの道のり～

河野恵美子
高槻赤十字病院
消化器外科

日本外科学会女性支援委員会が行ったアンケート調査によると、女性外科医の平均結婚年齢は 29.9 歳、平均出産年齢は 31.6 歳である。卒後 5 年目前後に相当し、外科医としての研鑽時期と重なるため、育児と外科職務の両立は容易ではない。従って多くの女性外科医は、出産と同時に他科へ転科する、もしくは結婚・出産を諦め外科道に邁進するという選択肢しかなかった。演者は卒後 17 年目の消化器外科医であるが、卒後 5 年目で結婚、6 年目で出産した。当時、家事育児と消化器外科職務を両立しながら第一線の病院で活躍している女性外科医は周囲にいなかった。1 年間の専業主婦の期間を経て、育児支援制度が整っている急性期病院の外科医長として着任した。しかし、着任当初、許された業務は第 2 助手と雑務のみであった。24 時間 365 日対応できない外科医には患者を任せられないというのが主たる理由であった。患者担当・外来業務は許されず、執刀は論外であった。着任して半年後、院長に退職を申し出、トップダウン式に消化器外科職務が許され、消化器外科に残留することとなったが、精神的に厳しい環境に何度も辞めることを考えた。外科医人生の大きな転機となったのは「消化器外科領域において女性であることは武器である」という気付きであった。卒後 11 年目に自動吻合器・縫合器のエルゴノミクス化を目指し、「外科医の手プロジェクト」を立ち上げ、女性目線で手術デバイスの開発やコンサルト業務にも携わってきた。卒後 16 年目には「女性消化器外科医の活躍を応援する会」を立ち上げ、女性医師が活き活きと活躍できる環境を目指して奮闘してきた。現在は育児支援制度から離脱し、他の外科医と同様の条件で消化器外科医として勤務している。
昨年、女子医学生に講演した際に「消化器外科職務と家事育児の両立は無理」と全員が考えている事実に驚愕した。本講演では、「家事育児との両立は不可能」といわれてきた消化器外科の世界で演者自身がどのように生きてきたのかを紹介し、常識にとらわれない生き方や自身の可能性を信じて進んでいくことの大切さを伝えたい。